

人の平等踏みにじる行為

第三回 元首の「国葬」強行を統一協定と
のかかわりの問題を宗教者としてどう考へる
か、日本基督教団鹿児島教区副監督・いわみ愛祭
牧師、「國葬を考える市民の集い」共同
代表の布田義治さんと聞きました。

高橋拓丸

日本基督教団東北教区副議長

安倍元首相を特別な働きをした人だからと国葬という形にするのはおかしなことです。誰か一人を特別な存在として選別することは、他の人を特別でない人とすることであり、尊重されないと分ける行為です。人の平等を踏み

のにじる行為

にじる行為であつてはならないといふのです。私たちの言葉で言えば、「神は人を分け隔てなさいません」(新約聖書・ローマの信徒への手紙2章11節)。神さまの前にすべての人は等しい存在で、一人ひとりかけがえのない命を与えられて生きてています。

民主主義の破壊

それは、私たちの憲法にもうたわれていると数以上が国際立場を表明していく。強行はその

は「かくて国民は、法の下に平等」もソノ華族も貴族も廃止し、米蓄、黙算などの特權も認めていないのです。一人の人を「榮譽ある特別の人」としてまつり上げることには、親しい者にとっては喜ばしいかもしません。しかしそうでない人たちには、許せない悪いが普通です。

ふだ・ひではる 1948年仙台市生まれ。東北学院大学卒、東京神学大学修士卒。日本基督教団東北教区副議長。いすみ愛泉教会(仙台市泉区)牧師。東北教区放射能問題支援対策室いすみ運営委員長。国葬を考える市民の集い共同代表。

のつながりも大きな問題です。どうわけ、安倍元首相に対する評価はさまざまです。「8年の最長の首相経験者」と言われ、震災の痛みを寄りそったところに「すべて国民は、法の下に平等」とし、華族も貴族も廢止し、栄養、勲章などの特権も認めていないのです。一人の人をしてまつり上げること、親しい者にとっては、喜ばしいかも知れません。しかしそうでない人たちには、許せない悪いを抱えている人もいるのが普通です。

実際に世論調査でも半数以上が国葬に反対を表明していく、強行はその思いを無視するひとです。国会の審議も経すぎた。

閣議決定だけで、民意を無視し法的根拠もなしに強行する、いわば民主主義の破壊でしかありません

統一協会被害も

憲法も国会も無視し、安保法制や秘密保護法などを強行し、民主主義を破壊してきた8年でした。

復興はいまだ途上で、被災者も漁業者のみなさんは、私たちも置き去りにされてきた11年でした。私は原発事故を受けて放射能問題対策室の活動に関わっていましたが、事故後の政策は棄民政策だったと思えてなりません。

私が所属する日本基督教団東北教区は2006年に、統一協会の催しに祝電を送っていた宮城県の村井嘉浩知事に公開質問状を出したましたし、私も統一協会の被害者の相談に何度も乗ってきました。家庭を壊され、訴えることも家族を助け出すこともできない人たちの姿を見てきました。

深刻さに国葬も反省もないまま、「国葬」を進むのは、あまつとも無責任です。